

# 2020 年度事業計画

「Change & Challenge」第2章

“Be Precious ! Be Prestigious !” Vol.2

2020年3月24日

学校法人森ノ宮医療学園

## 【目次】

I.基本方針	1
II.主要事業計画	7
III.計画の監理	8
IV.部署別事業計画	9

# I.基本方針

## 1. 事業方針

### (1) 学園全体

「“関西圏トップ”の実現」を基本目的とする第2期中期計画の2年目として、12の中核プロジェクトを中心に、目標達成のための取り組みの安定化と、これまでの成果の定着化を目指す。

**【基本目標（2023年度末までに実現したい姿）】**  
「人口減少社会に勝ち残るブランド力  
（第1期中計目標“関西圏トップクラス”⇒）“関西圏トップ”の実現」

**【目標指標】**  
①各学科国家試験合格率、対入学者年限卒業率、  
就職率いずれも関西圏トップ  
②各校収容定員充足率100%以上  
③借入返済後キャッシュフロー黒字化  
④働きがい度80%以上

**【テーマ】 Change&Challenge第Ⅱ章**  
“Be Precious！ Be Prestigious！”

**【目標達成のために解決しなければならない課題】**  
①新規事業の完成・成功  
②既存事業の再生・安定  
③上流（入口）・下流（出口）ネットワークの強化  
④“森ノ宮ブランド”の確立・認知獲得  
⑤「個の力」と「組織の力」の有機的強化



▶Be Precious! Be Prestigious! のための12の中核プロジェクト  
▶各部署中期計画

## ■ 12の中核プロジェクト

- ① 森ノ宮式「チーム医療教育」確立プロジェクト
- ② 「研究の森」づくりプロジェクト
- ③ 財務基盤安定化プロジェクト
- ④ 「森ノ宮オリジナルづくり」プロジェクト
- ⑤ 「Smart'M」プロジェクト
- ⑥ 未来投資プロジェクト
- ⑦ 「時代に対応した柔軟な学部・学科展開」プロジェクト
- ⑧ 「グローバルM」プロジェクト
- ⑨ 卒業生支援強化プロジェクト
- ⑩ 入試改革プロジェクト
- ⑪ 学生支援強化プロジェクト
- ⑫ FSD強化プロジェクト

<中核プロジェクトの2020年度方針>

① 森ノ宮式「チーム医療教育」確立プロジェクト（大学）：

2020年度より、チーム医療教育(MAC)に新たなカリキュラムを加え、IPEをさらに強化。MBS(Morinomiya Basic Seminar)と7学科全体での病院見学実習を1年次に配置。低学年から医療の魅力を感じさせ、意識づけ/動機付けを行う。病院見学実習では基幹病院と連携した大掛かりなイベントとなるが、これにより医療系大学としてのブランディング構築へ繋げ、受験生/在学生へのインパクト・広報的インパクトを高める。3年次IPW論（症例カンファレンス）も継続して実施し、新たに臨床工学科を加え症例をブラッシュアップすることで、さらに実践的なカンファレンスとし、学修効果を高める。

② 「研究の森」づくりプロジェクト（大学）：

2020年度より「インクルーシブ研究センター（仮称）」を設置。研究支援センターと連携し大学全体のテーマ研究を構築し社会に発信することでブランディングに寄与する。全学科が参加し、それぞれの特徴を生かした研究を展開しながらも、大学全体として1方向を向いた全体像を構築する。同時に若手研究者の指導も兼ね、確実に業績につなげる。受験生・在学生へも研究機関としての森ノ宮医療大学の魅力を伝える。

③ 財務基盤安定化プロジェクト（学園）：

資金調達の終了を踏まえ、経理システム（TOMAS）の拡張機能や私学事業団の経営指標等を活用して学園内外に「分かりやすい」長期財務管理システムを整備するとともに、事業セグメント別管理会計や別会計管理（別法人化）等によりコストや成果・責任関係の可視化を行い、学園全体としてビジネスモデルの強化・再構築を進める。

④ 「森ノ宮オリジナルづくり」プロジェクト（学園）：

2020年度の目標管理シートから、部署・個人別の「オリジナルスキルの習得状況」を参考データとして把握するとともに、発表会等を通じた横展開等により、競争力のあるオリジナリティの構築と共有を進める。

⑤ 「Smart' M'」プロジェクト（学園）：

引き続き PT（プロジェクト・チーム）の組成・活動を呼びかけるとともに、教職員意識調査や個人目標設定面談を通じて職員の意見や提案を把握し、具体的な施策に繋げる。

⑥ 未来投資プロジェクト（学園）：

ランゲージスクールの学生を対象とした人材派遣・紹介事業を試行的にスタートさせ、中計期間内における事業安定化の基盤整備を行う。

⑦ 「時代に対応した柔軟な学部・学科展開」プロジェクト（大学）：

2020 年度に設置する診療放射線学科・大学院看護学専攻科を軌道に乗せるとともに、2022 年度の看護学博士課程設置・学部再編（看護学部・リハビリテーション学部（仮称）・医療技術学部（仮称））を目指し準備を進める。

⑧ 「グローバル' M'」プロジェクト（大学）：

短期プログラムを中心に海外留学の多様化を検討するとともに、全学科を対象にしたオーストラリア、鍼灸学科はアメリカ、理学療法学科は韓国、臨床工学科はミャンマー、看護学科はアメリカでの研修を検討する。

危機管理については、研修会に参加することで情報収集を行う。ランゲージスクール（LS）学生との交流については、大学の学生ボランティアが LS 学生と交流、また、LS 学生が大学の部活動へ参加することで異文化交流を行なう。

地域に根付く大学として様々な地域貢献に取り組む。2019 年度から太陽の町で実施している「もりもり町の保健室」では、学生の積極的参加を促し教育的効果もにらみながら、地域高齢者との関わりをさらに充実させ、地域連携センターと協働し、医療系大学としての地域貢献を目指す。地域を研究フィールドとして地域貢献活動内での研究構築に関しても、「インクルーシブ研究センター（仮称）」と連携して 2020 年度検討する。市民公開講座の継続・新規事業模索も経営企画室・地域連携センターと協働して実施する。

また、地域連携センター・経営企画室・学科が連携し、質の高い地域/社会貢献活動を維持する。さらに 2025 年度開催の日本国際博覧会（万博）の大阪府市館パビリオン 10 歳若返りプロジェクト実行委員会メンバーとして 2020 年度より内容の検討を始める。

⑨ 卒業生支援強化プロジェクト（大学）：

生涯学習支援体制の構築（ブランディングの構築）の目的として、文部科学省が推進している職業実践力育成プログラム（BP）を利用した本学独自の「運動器理学療法アップデート講座」を開催し、卒業生だけでなく広く内外に「森ノ宮」を知らしめる。さらに BP を利用した講座の開設を目指す。また、本学でさらに BP 卒業生に対しては、キャリアアップの支援のため各種セミナーや「森ノ宮医療大学学術大会」のさらなる充実を図る。

⑩ 入試改革プロジェクト（大学）：

2021 年度（令和 3 年度）入試に向けて、アドミッション・ポリシー、入試方法、入試期日等、学力検査等を決定する。また、大学入試共通テストに参入する。受験生が他大学と併願しやすい制度を構築し、今年度以上の受験者数を目指す。

⑪ 学生支援強化プロジェクト（大学）：

初年次からのキャリア教育の実施および各学年のキャリア教育充実ため、年度初めのオリエンテーションにて学学年、各学科ごとにキャリアガイダンスを実施する。本学園と相互連携協定を締結している法人や施設等において、実習登録している学科以外の各学科との連携強化を図り、実習の充実や将来的な就職先の開拓を図って行く。

⑫ FSD 強化プロジェクト（大学）：

学修成果と内部質保証に関連して、教育のアウトカムあるいは教育成果自体の日常的かつ恒常的な質的向上とその不断の継続推進が強く求められている中、特に講義・演習・実習を中核とする授業そのものの評価基準の見直しと構築を進める。大学はその特性上、学生への単位授与の権限を教員に集中してきた経緯があるが、今後、組織的な取組としての、教職協働の学生の単位の取得支援とその有

効性、カリキュラムポリシーをはじめとする3つのポリシーだけではなく質保証に関わるアセスメントポリシーの確立と普及を2020年度の方針とする。

また、教職員にあっては業務遂行の有効性と効率性の実現に徹底できるように、個人資質や技能に頼らない組織としての能力向上を、FSD活動を通じて実現する。

## 2. 財務方針

- 第2期中期計画の最終年度である2023年度には、新規事業を含めた借入返済後キャッシュフロー黒字を実現し、将来的には、20～30年サイクルで全固定資産を自己資金で更新をすることができる財務体質の構築を目標とする長期財務計画に基づき、2019年度に引き続き新規投資を除く単年度収支での健全性を確保する。
- 現預金の減少傾向が続くことから、資産運用は引き続き見送る。

【中期財務計画（単位：円）】

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
<b>第 2 期 中 期 計 画</b>													
収入	合計	3,845,250,000	3,853,041,960	4,004,241,960	4,126,641,960	4,165,041,960	4,165,041,960	4,165,041,960	4,165,041,960	4,165,041,960	4,165,041,960	4,165,041,960	
支出	合計	-3,757,746,000	-3,810,273,520	-3,851,478,990	-3,901,478,990	-3,901,478,990	-3,901,478,990	-3,901,478,990	-3,901,478,990	-3,901,478,990	-3,901,478,990	-3,901,478,990	
新規投資・借入返済前当年度CF		87,504,000	42,768,440	152,762,970	225,162,970	263,562,970	263,562,970	263,562,970	263,562,970	263,562,970	263,562,970	263,562,970	
投資収支	WLS	-2,196,000	-1,410,000	73,232,000	106,970,000	98,446,000	106,970,000	106,970,000	106,970,000	106,970,000	106,970,000	106,970,000	
借入収入		250,000,000											
借入返済		-128,716,109	-221,827,919	-241,052,078	-240,216,559	-239,381,040	-238,545,520	-237,710,000	-236,874,480	-236,038,960	-235,203,440	-234,367,919	
		(返済累計)	128,716,109	350,544,028	591,596,106	831,812,665	1,071,193,705	1,309,739,225	1,547,449,225	1,784,323,705	2,020,362,665	2,255,566,105	2,489,934,024
新規投資・借入返済後当年度CF		既存事業の当年度CF+投資計画収支	-178,908,109	-380,469,479	-15,057,108	91,916,411	122,627,930	131,987,450	132,822,970	133,658,490	134,494,010	135,329,530	136,165,051
現預金残	前年度現預金+借入返済後当年度CF	2,321,091,891	1,940,622,412	1,925,565,304	2,017,481,714	2,140,109,644	2,272,097,093	2,404,920,063	2,538,578,553	2,673,072,562	2,808,402,092	2,944,567,142	
手元運転資金17億留保後の現預金残		621,091,891	240,622,412	225,565,304	317,481,714	440,109,644	572,097,093	704,920,063	838,578,553	973,072,562	1,108,402,092	1,244,567,142	
累計返済可能額	返済累計 + 17億を留保後現預金残	749,808,000	591,166,440	817,161,410	1,149,294,379	1,511,303,349	1,881,836,318	2,252,369,288	2,622,902,258	2,993,435,227	3,363,968,197	3,734,501,166	
一括返済後の単年度CF												一括返済	

## Ⅱ. 主要事業計画

### ① 初年次教育・リメディアル教育プログラムの再構築（大学）

入学者・低学年時学生の基礎学力の定着をサポートすべく、学修支援センター・教務室・広報室等が連携した、効率的な入学前～初年次（ゼロ年次）教育のシステムを再構築する。また、リメディアル教育にもさらに注力し、数学・物理等の基礎学力を向上させるプログラムを学修支援センターと学科が連携し構築する。

### ② 大学院看護学専攻（D）設置申請/看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術学部の設置申請（大学）

2022年4月に大学院保健医療学研究科に看護学専攻（D）を新設することで、看護領域に特化した高度専門職業人の育成を目指す。また、保健医療学部を3学部に分割することで、各学部の学科特性を強化する。

### ③ 柔道整復学科柔整トレーナーコース、スポーツ・臨床センターの開設（専門学校）

柔道整復師に加えてパーソナルトレーナー資格の取得が可能となる新コース「柔整トレーナーコース」を2021年4月に柔道整復学科に開設するため、2020年度中に大阪府への申請を行う。

### ④ ランゲージスクール収容定員増（LS）

2020年度は不法在留者を出さずに適正校の承認を目指す。また、適正校となり、ランゲージスクールの収容定員を100名から150名へ増員の申請を行う。

### ⑤ 介護福祉士養成学科開設準備（法人）

2021年4月、介護福祉士養成校を設立する。養成校設立に向けて、2020年度は、大阪府への申請、校舎建築を行う。また、日本語教育と介護福祉士養成教育を一貫で行う外国人介護福祉士養成教育システムの完成を目指す。

### Ⅲ.計画の監理

(1) 成果報告における確認

毎年度期初に行っている部署別の「成果報告会」で、前年度の実績を確認しつつ、適宜、事業計画の追加修正を行う。

(2) 4 か月ごとの進捗管理

4 か月ごとに部署別事業計画の進捗状況を把握するとともに、必要な対応を講じ、理事会に報告する。

(3) 月次資金繰・予算実績管理と連動した中期財務見通しの更新

月次の資金繰報告・予実管理結果を中期財務見通しに反映し、事業の進捗状況と併せて理事会に報告する。